

【電子くじについて】

一般競争入札及びオープンカウンターにおける開札の結果、落札（契約決定）候補者となるべき同価の入札をした者が2人以上あった場合、見積入札システムによるくじ引により、落札者（契約者）を決定しています。

電子くじによる落札（契約）業者の決定方法は、次のとおりです。

1. シード値を求めます。

⇒シード値とは、次の①、②、③を文字列として連結したものです。

① 案件番号

② 業者番号

③ 入札（オープンカウンター）案件に参加した全業者の入札（見積）金額の合計値

（例）

① 1 7 1 0 1 2 3 4 5 6 7 8

② 9 9 8 8 6 4 3 0 1

③ 2 5 0 0 0 0 0

①②③ = $\underbrace{1\ 7\ 1\ 0\ 1\ 2\ 3\ 4\ 5\ 6\ 7\ 8}_{\text{①}} \underbrace{9\ 9\ 8\ 8\ 6\ 4\ 3\ 0\ 1}_{\text{②}} \underbrace{2\ 5\ 0\ 0\ 0\ 0\ 0}_{\text{③}}$

2. ハッシュ関数を使用し、ハッシュ値を求めます。（ハッシュ関数は SHA-1 を使用します。）

⇒ハッシュ関数とは、与えられた入力値から、規則性のない固定長の値を生成する演算手法です。代入する値が一文字でも異なると、全く異なった計算結果が導き出され、計算結果は規則性を持たないという特性を有します。

入札者も県側も、意図的な操作を行えないことから、特定の入札参加者が有利になることはありませんし、業者番号の大小も結果には何ら影響しません。

また、計算により求められたハッシュ値は、0～9、A～Fの16文字を用いる16進数（※）で表示されますが、その値は開札まで誰も知ることはできず、事前の予測も不可能なものです。

※16進数の値は「0」が一番小さく、「F」が一番大きいこととなります。

〈値の大小関係 小 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F 大〉

3. ハッシュ値を比較し、ハッシュ値の小さい業者を落札業者とします。

⇒くじの対象業者ごとに算出したハッシュ値を比較し、値の小さい者から落札候補者となるべき順番を1番から付与していくものとします。